**意思決定支援の経験を積み上げ共有すること**

　みだい寮では、１月～３月になると、職員全員でその年度の「みだい寮実施事業の自己評価」に取り組む。２０１７年度は新たに「放課後等デイサービス事業所自己評価表」を保護者の協力を得る中で作成した。いずれも、２０１８年度当初にホームページで公開している。

　職員が、自らの仕事を顧みて議論することに意味がある。ここ３年間の取組の中での最大の課題は「意思決定支援」をどう実践していくかである。みんなで学習会を開き、ガイドラインやいくつかのマニュアル等の文献を参考に、みだい寮のマニュアルづくりに取り組んだ（「『その人らしく』生きる　暮らしを支えるための検討委員会」委員長：横山基子）。項目的な、箇条書的なマニュアルをつくって留意点を覚え込むならば、網羅的に文献から文章を抜き出せばできるだろう。それよりも、これまでの自分たちの取組を分析し、何が足りないのか、どこが評価できるのかを議論し、支援の経験として積み上げ，共有していく作業を始めることにした。手始めに、いくつかのケースを担当者がまとめて文章化した。職員はもとより、いろんな意見が聞ければとホームページにＵＰしてみた。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２０１８年６月

施設長　老沼正敏